

第 10 回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 吉原正昭）の審査を経て平成 20 年 2 月 26 日（火）に開催された第 87 回理事会において慎重審議の結果、以下の 3 名の授賞を決定、社団法人軽金属学会第 114 回春期大会第 1 日目の 5 月 10 日（土）に愛媛大学において表彰式を挙行了た。

受賞者 権田峰夫 君 株式会社 旭精機 技術顧問 昭和 19 年 2 月 10 日生（64 才）

受賞理由



権田峰夫君は、三井アルミニウム工業株式会社および九州三井アルミニウム工業株式会社に在職時に長年にわたって軽金属学会の活動に携わり、同会の発展に尽力した。

特に昭和 54 年から平成 7 年までの 16 年間、鑄造・凝固部会の部会員としてアルミニウム溶湯の脱ガス技術、結晶粒微細化技術およびアルミニウム中の介在物の解明等に関する活動を行い、アルミニウム産業界に有益な知見を提供し、技術向上に貢献した。

また、九州支部評議員を昭和 63 年から平成 16 年までの 17 年間務めるとともに、本部評議員も平成 9 年から平成 14 年まで務め、九州支部活動および軽金属学会本部活動の運営に貢献した。さらに高橋記念賞選考委員やアルミニウム鑄物用合金の JIS 改訂に従事し、軽金属学会の運営および発展に尽力した。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第 10 回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 福井康司 君 東洋アルミニウム株式会社 取締役 昭和 26 年 3 月 1 日生（57 才）

受賞理由



福井康司君は、昭和 50 年に東洋アルミニウム株式会社に入社以来、主としてアルミニウム箔の製造技術に関する研究開発に従事してきた。特に電解コンデンサ用高純度箔および食品・薬品包装用普通純度箔の特性改善や生産性向上について業績を上げてきた。これら成果を「軽金属」ほかに掲載する一方で、軽金属学会主催のシンポジウムや各支部研究会、基礎技術講座の講師として、また東京工業大学では非常勤講師として、アルミニウム箔やパウダーに関する技術面について解説し、その技術的課題を明確にし、知識の普及に努めてきた。

さらに平成 10 年より現在まで 10 年間にわたり継続して本学会関西支部理事として、関西支部研究会や本学会創立 50 周年記念講演会、式典等の支部活動に積極的に参画してきた。また第 104 回春期大会（姫路工業大学）実行委員、高橋記念賞選考委員（第 26、27 回）、小山田記念賞選考委員（第 34~37 回）として学会活動に貢献してきた。

これらの業績から同君が本賞に極めてふさわしいと認め、第 10 回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 山田 徹 君 旭テック株式会社 基礎研究部 部長 昭和 23 年 8 月 27 日生（59 才）

受賞理由



山田 徹君は、約 30 年にわたり、アルミニウム合金およびマグネシウム合金に対して、前半は主に展伸材分野、後半は鑄造分野を中心に製品開発を行ってきた。代表的な例として、展伸材分野では、二輪車のオールアルミニウム製フレームの開発や 6000 系高強度アルミニウム合金の鍛造技術の開発（日本アルミニウム協会 鍛造技術賞）があり、鑄造分野では、アルミニウム合金鑄物による自動車用クロスメンバの開発（軽金属学会 小山田記念賞）などがある。また、マグネシウムの分野においては、国内初となるシートフレームやステアリングメンバといった大物自動車部品のダイカスト化に成功した（日本マグネシウム協会賞）。

さらに、これらの用途開発の過程で、必要となる基礎的データや解明すべき事象について、大学との共同開発も含め、学会講演も数多く行っている。

また、開発を通じ若手技術者が活躍できる場を作り、アルミニウム技術者を多数育ててきた。アルミニウム鑄物に関わる研究部会などには、若手を積極的に参加させ、所属を問わず若手の育成に力を注いできた。その結果、若手技術者が支部若手研究者ポスター講演会で優秀賞を受賞した。

一方、平成 17 年より、軽金属学会東海支部の監事として、支部運営はもちろん、全国大会の実行委員として、工場見学会を企画運営するなど、学会活動に積極的に貢献してきた。

以上のように、軽金属の多岐の分野において、学会活動を中心に、長年にわたり多大の貢献をしてきており、ここに軽金属学会功労賞を贈る。